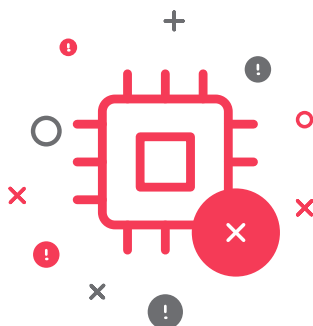


xCarbon

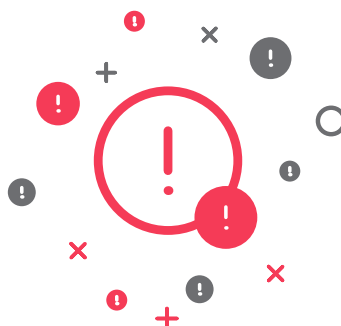
システム全体の大規模な改修を
不要にするフリクションレスIDS/IPS

IDS/IPSの自社開発には、
継続的な運用・保守が不可欠です



メモリ使用率の懸念

効果的な検出ルール of 定期的な更新は日々進化する脅威に対応し、積極的な防御を実現するために不可欠ですが、相應の人的コストが伴います。また、ルールが増えれば増えるほどメモリ使用率も上がり、検出時間が長くなることでリソースが限られるECU（電子制御ユニット）に負担をかけ、システムの安定性が損なわれる可能性があります。



過剰な誤警告

過剰な誤警報は日々大量の対処が必要となり、結果として人的コストの増大や、誤検知を抑制するための複雑なフィルタリングシステムの導入を招き、システムの設計や運用負荷を大幅に増大させます。

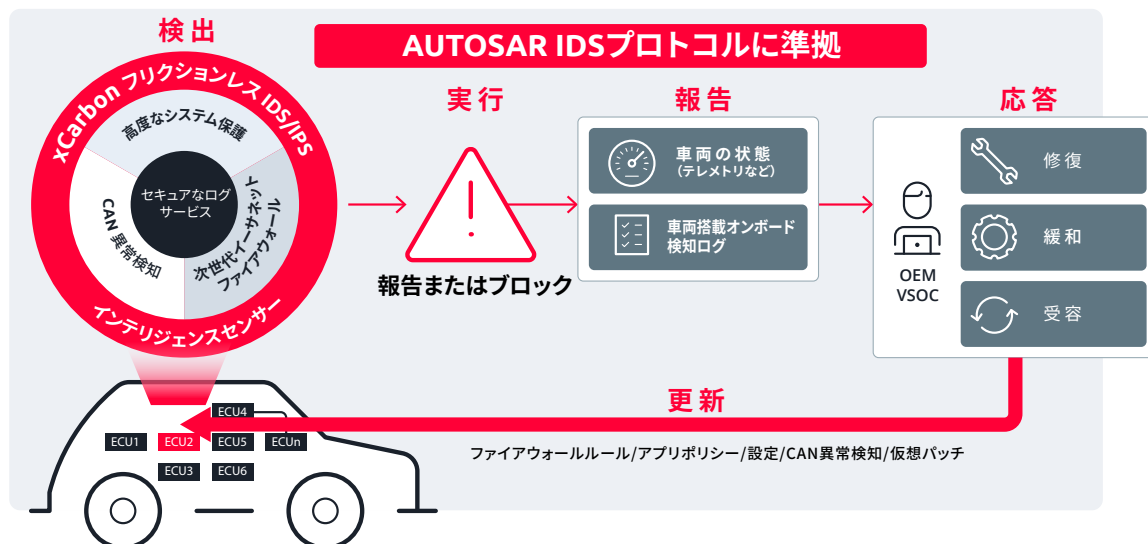


データ送信コストの増加

100万台を超える車両データをクラウドへ送信するには、月に最大で210万米ドル*のコストが生じる可能性があり、費用負担も増加します。VSOC（車両セキュリティオペレーションセンター）に不要なセキュリティイベントを送信しない方法を見つけることが、重要な課題となっています。

*出典：AECC

軽量かつ精密なフリクションレス IDS/IPS



主な機能

次世代イーサネットファイアウォール

DoS攻撃、悪意のあるペイロードなど、イーサネット上の疑わしいイベントやネットワークの脆弱性を特定します

CAN異常検知

攻撃による異常なID、送信数、ペイロードを持つメッセージなど悪意のあるCANメッセージを検知します

高度なシステム保護

ホストベースの侵入検知システム (IDS) がシステムの整合性を確保し、ECUやサービス指向アーキテクチャ (SOA) 上での権限のないアプリケーション実行のブロックや、異常なシステム活動を検知します

フリクションレス インテグレーション

組み込みLinux、Android Automotive OS、QNX、Red Hat In-Vehicle Operating System、Wind River VxWorksなど、さまざまなオペレーティングシステムをサポートするとともに、エッジAIおよびエッジコンピューティングにも対応しています

ソフトウェアデファインドビークル (SDV) のリスクへの準備

コンテナのセキュリティを提供するだけでなく、仮想マシン (VM) 環境内での運用もサポートします

独自の仮想パッチ (バーチャルパッチ) 技術

ベンダーパッチが利用可能になるまでの間、仮想パッチを適応し、平均102日間の保護を提供します

エッジAIによる検出

xCarbonは、自己学習と脅威の認識を可能にし送信データ量を削減できるため、運用コストを削減しながらオンボードデータのセキュリティを確保します。

導入メリット

柔軟な適用性

さまざまなECUやEEAのニーズに柔軟に対応できる軽量かつモジュール型の統合性を提供します

高精度な検知

誤検知を最小限に抑え、正確な脅威検知を保証する独自の脅威エキスパートルールを利用いただけます

コスト効率

通信コストを最大60%削減し、運用費用を最適化します

長期サポート

車両のライフサイクル全体を通じて専任のエキスパートによる継続的なサポートを利用いただけます

